

伝言板

日曜日夜間の小児科救急医療輪番病院の
問い合わせは埼玉県救急医療情報センターへ
3月から、所沢地区(所沢市・狭山市・入間市)の小児科
救急医療輪番病院は、日曜日の夜間を担当する病院が
不在となります。担当病院が決定するまでは、埼玉県救
急医療情報センター(☎048 824 4199)で受診可能な
医療機関をご案内しますのでお問い合わせください。
なお、日曜日の夜間以外の輪番体制は、時間帯を含め従
来どおり輪番病院が担当します。
問い合わせ健康推進課へ☎956 8050

毎月2日は
ノーレジ袋デー



防災一口メモ

一人の力では限界が...地域との連携が大切
災害や事故が発生し119番通報をすると、消防署
員や救急隊員が現場へ駆け付けます。特に救急車
は、生活と密着したところで頻繁に出動しています。
しかし、大地震による大規模災害の場合はどう
でしょうか。家屋、ビルの倒壊などによって道路が
寸断されるなどの被害が多発すれば緊急車両も駆け
られなくなります。そして、次々に通報される被害
状況に的確に対応しようとしても、消防や防災関係機関
の出動だけでは手が足りなくなることが考えられます。
交通の阻害、通報困難、同時多発火災など、最悪
の事態ともなれば市民皆さんの活動が唯一のもの
となります。この場合、一人ひとりがバラバラに活
動しては、十分な効果は期待できません。自主
防災組織など地域の方々との連携こそが、被害を
最小限に押さえることにつながります。大規模災
害では、あなたの力が必要です。
問い合わせ交通防災課へ内線3695

消防本部からの報告

1月の火災件数3件(建物3件、車両0件、その他の火災0
件) 救急出動件数491件 搬送人員478人

人口と世帯 2月1日現在。(内は前月比)

| | 住民基本台帳人口 | 外国人登録人口 |
|---|----------------|------------|
| 男 | 81,741人(-129人) | 796人(+5人) |
| 女 | 78,627人(-32人) | 930人(-16人) |

| | | |
|----|-----------------|----------------|
| 合計 | 160,368人(-161人) | 1,726人(-11人) |
| 世帯 | 60,785世帯(-82世帯) | 1,356世帯(-10世帯) |

住民基本台帳法に基づく年齢別人口

| | |
|---------|------------------|
| 14歳以下 | 21,498人(13.41%) |
| 15歳~64歳 | 116,418人(72.59%) |
| 65歳以上 | 22,452人(14.00%) |

3月 狭山ケーブルテレビ

☎0120-340-379 ☎956-5630
e-mail: ch9@staff.s-cat.ne.jp
http://www.s-cat.ne.jp

みんな茶やま▶狭山市ホットインフォメーション(市役所からのお知らせ、字幕付)▶自治会の時間▶すこやか体操▶は~いお手紙です
ちゃっぴいアワー▶ニュース▶ウイークリーニュース▶サポートねっと
(WAVE・商工会議所からのお知らせ、発酵の講座、狭山市事業所防犯協議会、統一地方選挙情報ほか)▶カレッジステーション(新入学を控えて、my dear college、新年度をむかえてほか)▶地域経営者▶特集(彩の国「地鶏工房鳥正」芥川賞受賞作家大道珠貴さんに聴く、計画換気住宅、健康ボウリングほか)▶いろいろばたの昔ばなし「狭山のキヨカワハチロウ」
ちゃっぴい撮影隊▶「ケーブルテレビ衛星機構番組コンクール応募作品」を再放送します▶「ドリームフェスタ2002 総集編(4日~10日)▶講演会・新たな時代に於ける狭山市企業の経営(立地)環境(18日~24日)▶講演・狂言のこころ(25日~31日)
野村の自由学校▶「奈良・油煙墨(松壽堂代表・森克容氏)

4月中旬・下旬に行われる県議選、市議選。ちゃっぴい9では開票速報はもちろん、ホットな情報を随時お届けします。

お・茶・香・る・ま・ち

SAYAMA CITY
さやま

狭山市広報・お知らせ版 VOL.380
発行日/平成15年2月25日(毎月10・25日発行)
発行/狭山市 編集/狭山市総合政策部広報課
〒350 1380 埼玉県狭山市入間川1 23 5
☎042 953 1111(内線7162) ☎042 954 6262
テレホンガイドさやま☎0120 460 380
ホームページ http://www.city.sayama.saitama.jp/

編集後記

広報さやま1月10日号の裏表紙「富士の見える地名」を読んだ方から、こんなお手紙をいただきました。平成2年2月10日号掲載の「狭山から見える山々(絵図:藤本一美氏作)」を見て、散歩のたびに広瀬橋から眺めていた、奥武蔵秩父、奥多摩、高尾陣馬、大菩薩連嶺の五地域にわたる登山計画を立てました。そして、位置を確認して登山、山々の見取り図に登山済みのマークを付けていく...2年余りで60の嶺を登り終え、充実感溢れる思いが、学生時代に所属していた山岳サークルの記念誌のコピーとともにしたためられていました。結びごころとして何年もたっても、市民の誰かに活用されている『何か』があることをお伝えし、また楽しい企画を期待しています。」と記されておりました。当時の広報担当として、また現在の担当として大きな喜びとともに、編集への情熱を駆り立てられました。お便り、ありがとうございました。◎